

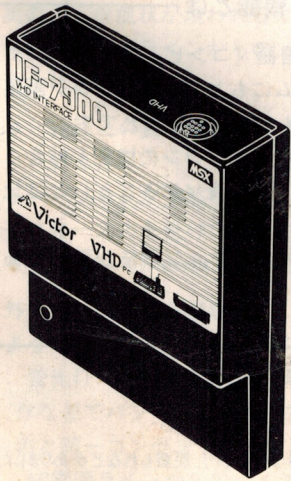
IF-7900

ビクターVHDインターフェース

取扱説明書

VHD PC

MSX



目次

本書の構成と使いかた	3
各部のなまえ	4
接続のしかた	5
操作のしかた	10
拡張BASICについて	13
使用上のご注意	33
保証とアフターサービス	34
仕様	35

ご使用前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとは大切に保存してください。

このたびは、
ビクター **VHD** インターフェース・IF-7900
をお買上げいただき、
ありがとうございました。

このIF-7900は、ビクターMSXパソコン(スーパーインポーズ機能付)とビクターVHDビデオディスクプレーヤー および VHD言語入りビデオディスク (ともに**VHD**_{PC}マーク付)と組み合わせて、VHD言語によるインターラクティブ(対話操作)機能を楽しむことができます。

また、内蔵の拡張BASICにより、VHDプレーヤーをMSXパソコンでコントロールすることができます。この場合はVHD言語によるインターラクティブ機能はできませんが、MSXパソコンのスーパーインポーズ機能を利用すればプログラミング次第で同様の機能を楽しむことも可能です。この時、VHDプレーヤーは13ピン外部制御端子付(HD-7800、HD-7900、BD-7950)であれば使用可能です。

— インターラクティブ機能とは —

VHDビデオディスクに記録されているVHD言語(コンピュータープログラム)をパソコンで読み込み、そのプログラムにもとづいてパソコン画像を合成したり、VHDプレーヤーをコントロールしたりすることです。

したがって、ビデオディスクのリアルな映像とパソコンの機能が結合されますので、今までのソフト(パソコンゲームや教育ソフトなど)とは比較にならない程の多彩な機能が楽しめます。

(**VHD**_{PC}マークはVHD言語によるインターラクティブ機能が可能であることを示します。)

※ **MSX** は米国マイクロソフト社の商標です。

※本書の内容については注意深く作成しましたが、万一、不明な点や誤り、記載もれなどがありましたらご連絡ください。

※本書によって操作した結果の影響については、上項にかかわらず補償いたしかねますのでご了承ください。

本書の構成と使いかた

本書は基本編と応用編に分かれています。基本編には、インターラクティブ機能を楽しむための接続方法および使い方などが記載されています。したがってインターラクティブ機能だけを楽しむ場合は、この基本編だけをお読みください。

応用編には、本機に内蔵されている拡張BASICの制御コマンドについて書かれています。制御コマンドを使うには、パソコンの基本的な知識やプログラミング技術およびVHDプレーヤーの方式や機能を理解するためのデジタル知識なども必要です。本書の応用編はこれらのことがわかっていることを前提として書かれています。

— お願い —

次のような症状が現われるときは、パソコンを中心とするシステムが外来ノイズ(AC電源ラインからのノイズ、直接波妨害)で誤動作していることが考えられます。

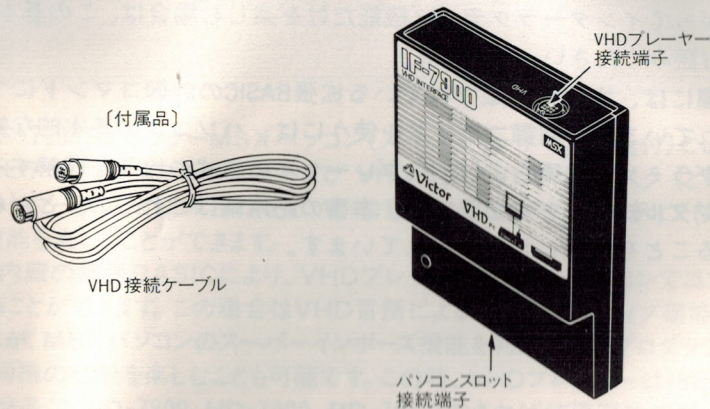
- 画面上の表示が欠けたり、異質の表示が現われたりする(データが化ける)。
- パソコンが突然リセットされる。
- キー入力を受けつけない。
- Device I/O errorを表示し中断してしまう。

外来ノイズ源から離れたところで使用することが最良の解決法ですが、次のような方法で誤動作を軽減することができます。

- 蛍光灯スタンドのON/OFF時、あるいはブラシ付直流モーター機器等の動作などでパソコンが誤動作することがあります。パソコンは、これらのものと同一コンセントで使用しないでください。
- AC電源ラインからのノイズによるパソコンの誤動作を防止するため、できるだけ市販のノイズフィルター付コンセントの使用をお勧めします。

各部のなまえ

- 使用可能機種例 ビクター **MSX** パソコンHC-5、HC-6、HC-7

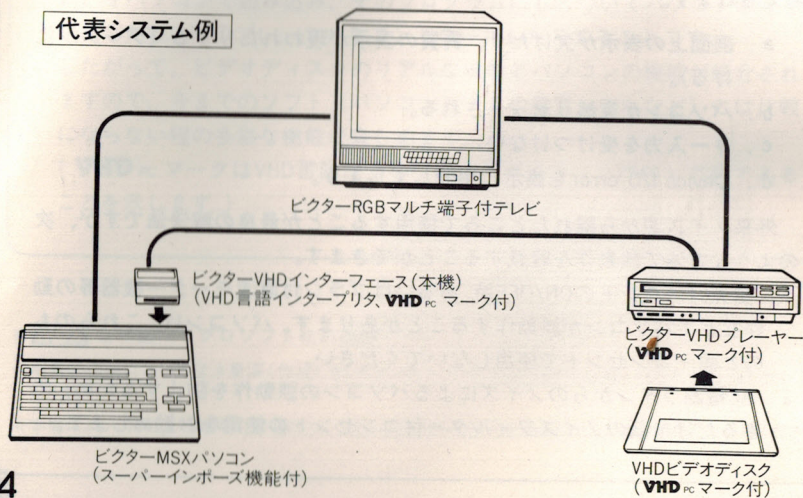


システム構成

VHD言語によるインターラクティブ機能を楽しむには、次のような機器が必要です。

なお、テレビによって接続方法が異なりますので次項の「接続のしかた」をご覧ください。

代表システム例



4

接続のしかた

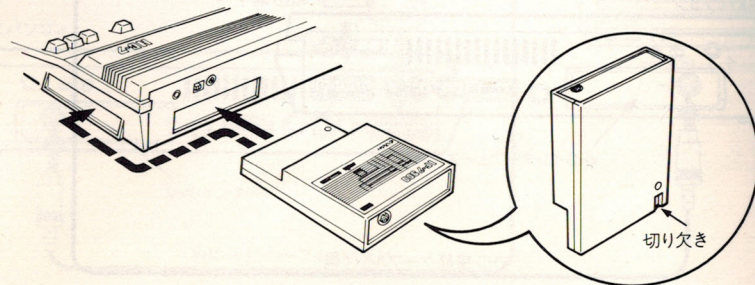
基本的な接続は、VHDプレーヤーの信号にパソコンの信号をスーパーインポーズする接続です。この接続に加えて、本機とVHDプレーヤーを付属のケーブルでつなぐだけで完了です。したがって、パソコンまたはスーパーインポーズアダプターの説明書もよくお読みください。

接続する際は次の点にご注意ください。

- 接続する際は、必ず接続する機器の電源を切ってください。
- パソコン、VHDプレーヤー、テレビなどの接続方法または操作方法については、それぞれの機器の説明書をご覧ください。
- パソコンの電源を入れる前に、接続されたテレビやビデオ機器が正しく動作していることを確認してください。
- 接続例の機種は代表例ですので、端子位置や表示が異なる場合があります。
- 接続するテレビをロッドアンテナや室内アンテナで使用しますと、画面に雑音が入る場合がありますので、屋外アンテナを使用して同軸ケーブルで接続してください。また、パソコンはできるだけテレビから遠ざけてください。

パソコンへの取り付けかた

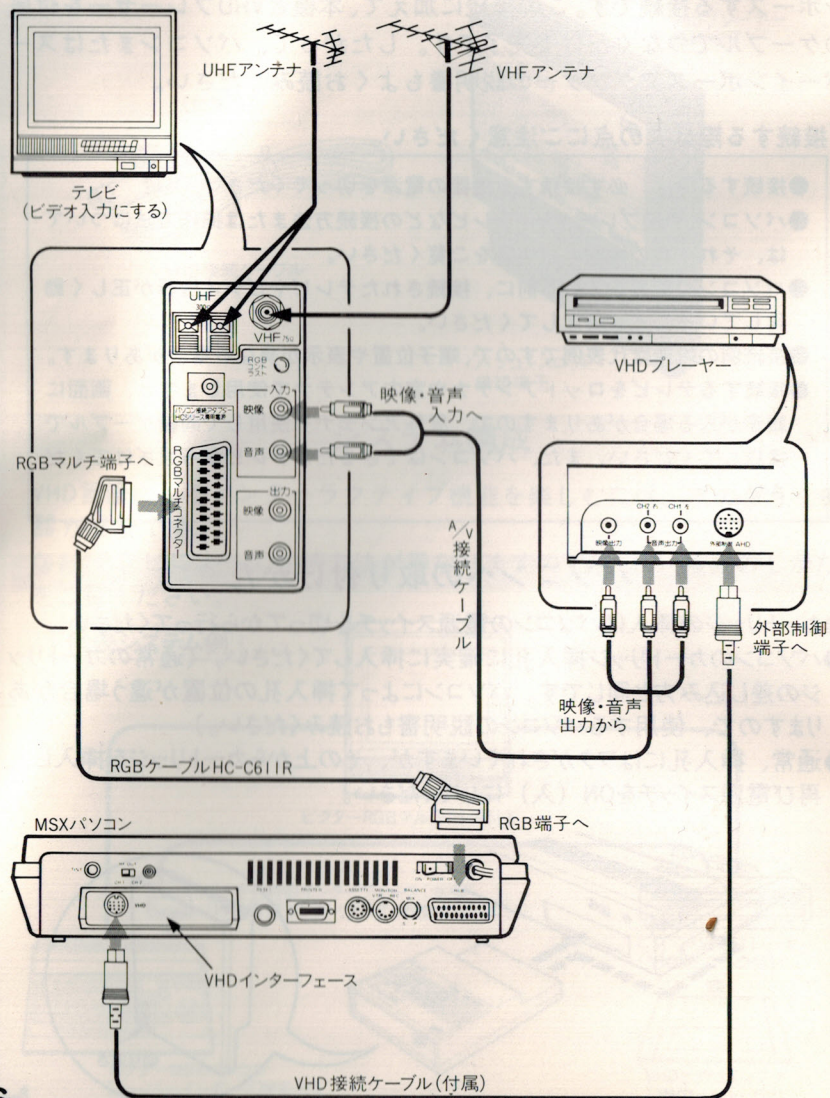
- カートリッジの挿入はパソコンの電源スイッチを切ってから行ってください。
- パソコンのカートリッジ挿入孔に確実に挿入してください。（通常のカートリッジの差し込み方と同じです。パソコンによって挿入孔の位置が違う場合がありますので、使用するパソコンの説明書もお読みください。）
- 通常、挿入孔にはフタがされていますが、その上からカートリッジを挿入し、再び電源スイッチをON（入）にしてください。



5

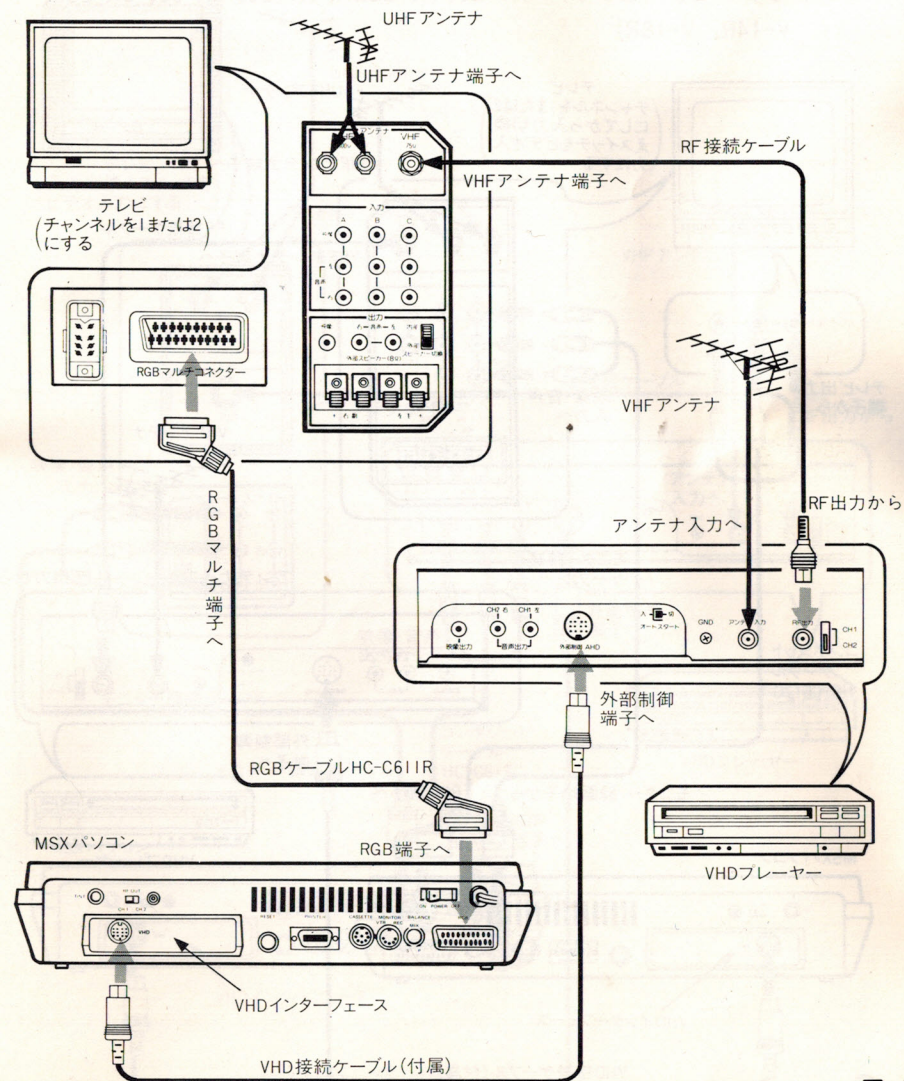
〔接続例 1〕 RGBマルチ端子付テレビの場合(その1)

RGBマルチ端子からテレビ放送やビデオ入力端子の信号が切り換えられて出力されるテレビ。(ビクター AV-MT15、AV-MT21)



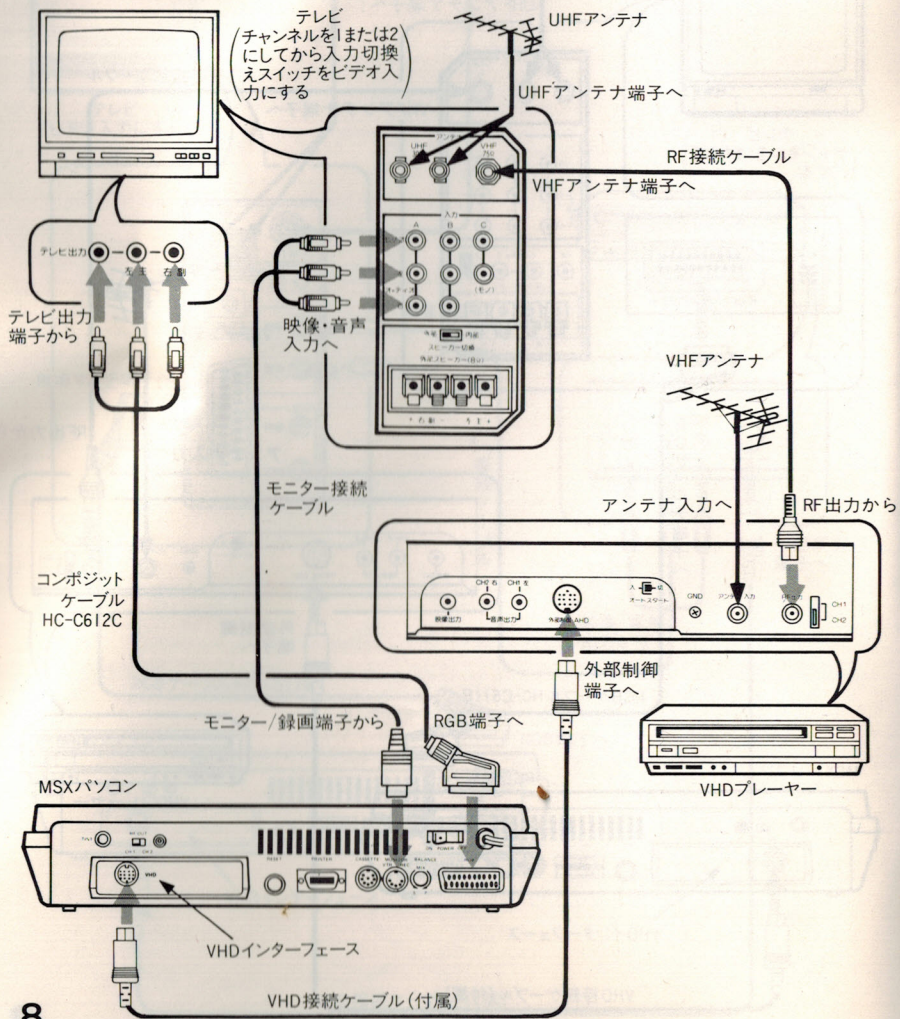
〔接続例 2〕 RGBマルチ端子付テレビの場合(その2)

RGBマルチ端子からテレビ放送の信号しか出力されないテレビ。(ビクター AV-260、AV-200、AV-200S、AV-201、AV-202)



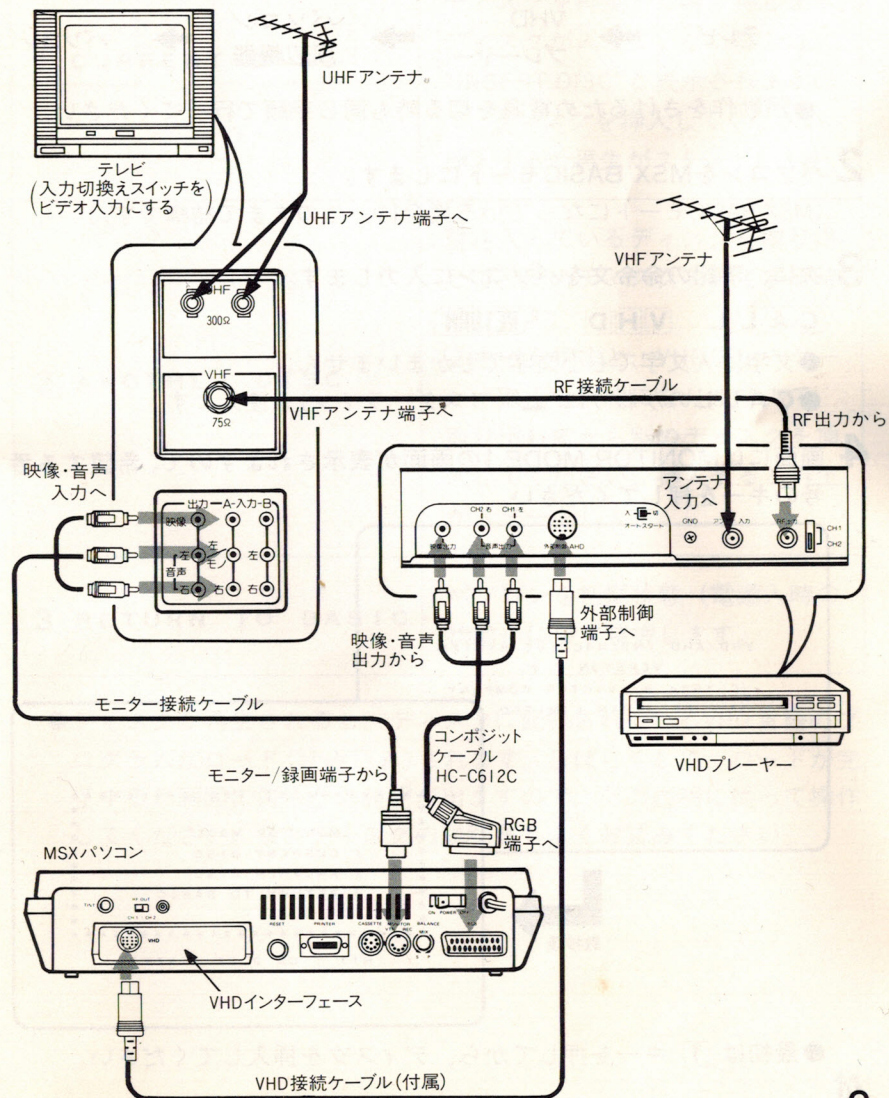
[接続例 3] テレビ出力端子と 映像・音声の入力端子付テレビの場合

入力モードを切り換えても常にテレビ放送の信号が出力されているテレビ。(ビクター AV-20、AV-20BR、AV-26、CX-60、CX-265、V-14R、V-18R)



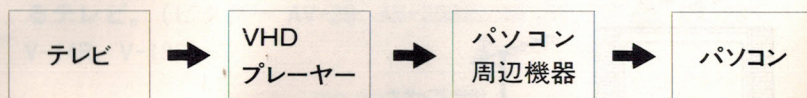
[接続例 4] 映像・音声の入力端子付テレビの場合

使用状態によっては[接続例 3]のテレビをこの接続で使うこともできます。



操作のしかた

1 次の手順で電源を入れてください。



●誤動作をさけるため電源を切る時も同じ手順で行ってください。

2 パソコンをMSX BASICモードにします。

(MSX BASICモードになっている場合は、そのまま結構です。)

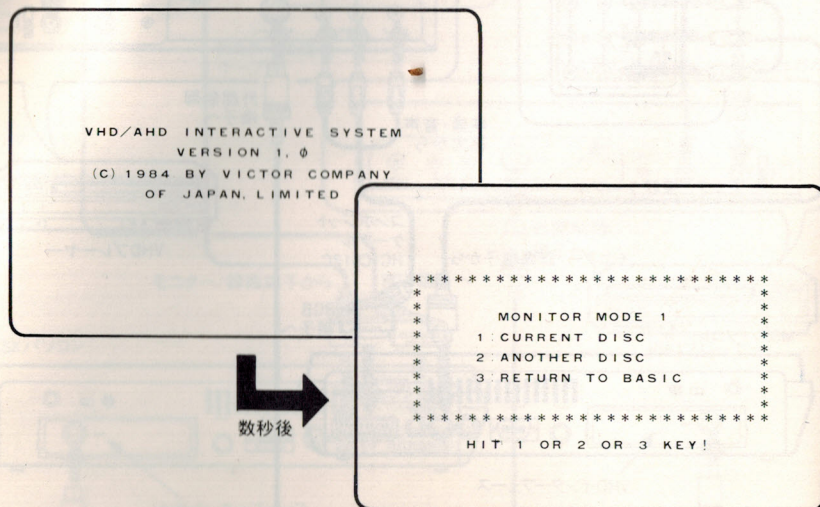
3 次に、下記の命令文をパソコンに入力します。

CALL VHD RETURN

●文字は大文字でも小文字でもかまいません。

●CALLのかわりに“_”(アンダーライン)も使えます。

4 画面には^{モニター}MONITOR MODE 1の画面が表示されますので、希望する番号のキーを押してください。



●最初は **1** キーを押してから、ディスクを挿入してください。

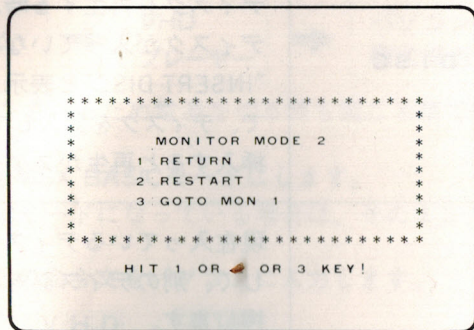
説明

<p>1: CURRENT DISC</p>	<p>現在VHDプレーヤーに入っているディスクを再生する時、押します。ディスクが入っていない場合は、“INSERT DISC”と表示されますので、ディスクを挿入してください。挿入すると再生がスタートします。</p>
<p>2: ANOTHER DISC</p>	<p>現在入っているディスクを取り出して、別のディスクを再生する時押します。 2キーを押すと、VHDプレーヤーが、取出し状態になりますので、取り出してから別のディスクを挿入してください。挿入すると再生がスタートします。</p>
<p>3: RETURN TO BASIC</p>	<p>パソコンを初期状態（電源入時の状態）に戻す時押します。</p>

●ディスクが再生されると、ディスクに記録されているVHD言語のプログラムがロード（読み込み）されます。しばらくして、ロードが完了すると画面に何らかの説明が出ますので、その説明に従って操作してください。なおディスクの説明書もよくお読みください。

5 再生中にストップしたいときや、最初の状態に戻りたいときは

- パソコンの **STOP** キーを押すと **MONITOR MODE 2** の画面が表示されますので、希望する番号のキーを押してください。



1 : RETURN	STOP キーの押された場所から、再び再生させる時押します。
2 : RESTART	ディスクの最初から、もう一度再生させたい時押します。
3 : GOTO MON 1	MONITOR MODE 1の画面を表示させたい時押します。

ご注意

VHD 言語ディスクによっては、STOP キーを押してもなかなか、MONITOR MODE 2 の画面に戻らない場合がありますが、これはディスクのプログラム構成によるものですので故障ではありません。この状態の時、すぐにディスクを取り出したり、交換したい場合は、次のようにしてください。

- 10ページの1の手順で各機器の電源を切ります。
- ふたたび、同じ手順で各機器の電源を入れます。
- すると、数秒後に取出し状態になりますので、ディスクを取り出してください。
- このようにすると、MONITOR MODE 2の操作ができなくなりますので、操作を続ける場合は、「操作のしかた」の手順に従って最初から操作してください。

拡張BASICについて

ここでは、VHDインターフェースのもう一つの機能である拡張BASICについて説明します。この拡張BASICは次の3種類のコマンドに分けられます。

- ① VHDプレーヤーのコントロール用コマンド
- ② VHDプレーヤーからの情報読み出しコマンド
- ③ スーパーインポーズ用コマンド

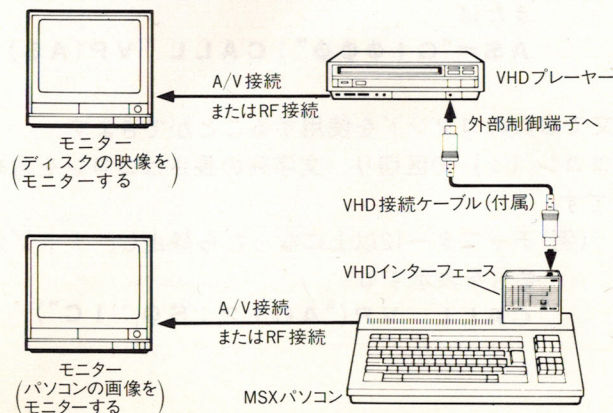
この3つのコマンドを使うことによって、VHDプレーヤーの状態やセンサー位置の情報を読み取り、パソコンで判断し、VHDプレーヤーをコントロールすることが可能になります。

また、スーパーインポーズ機能のあるパソコンを使っている場合は、簡単にスーパーインポーズすることができます。

※これらのコマンドはダイレクトモードでもプログラム中でも使用できます。

1 接続法

- 基本編の接続とまったく同じです。ただし、パソコンにスーパーインポーズ機能がない場合は次のように接続します。



2 コントロールコマンドの入力形式

形式 **CALL VP** (文字式)

説明

- コマンドの英文字は大文字、小文字のどちらも使用できます。
- 文字式とは文字型定数または文字型変数です。
文字型定数⇒文字列を " " で囲ったもの。
(例) "H01", "I/123"
文字型変数⇒変数名の後に型宣言文字 (\$) をつけたもの。
(例) A\$, X1\$
なお、文字型変数には文字型定数しか代入できません。
(例) A\$="H01"
- 文字式に含まれる文字列には、次項のコマンドを使用します。
(例) ランダムアクセスで1000ページをサーチする。
CALL VP("G1000")
または
A\$="G1000":CALL VP(A\$)
- 1つの命令文で複数のコマンドを使用することができます。
コマンドはコロン (:) で区切り、文字列の長さはコロンを含めて20文字までです。
(例) チャプター12以上になったら静止し、チャプター番号を表示する
CALL VP("AC12:S0:IC")

3 コントロールコマンド

[説明文中の用語や符号について]

- *には0~9を入れてください。
- #には0~Fを入れてください。
- $\frac{+}{-}$ には+, -, =のいずれかを入れてください。(+は省略できます。)
- 可変長とは、たとえば、"0001"の"0"を省略して"1"と表現できるものです。固定長とは桁数が決められていますので"0001"と表現しなければならないものです。本書の中では"0~99"という表現は可変長を、"00~99"という表現は固定長を表わしています。
- 初期設定とは電源を入れた時設定される状態をいいます。

A ～になったら～を実行

機能 センサー位置またはVHDプレーヤーの状態と、設定したディスクのアドレスまたはVHDプレーヤーステータスを比較し、条件が満たされた時点でコロン(:)以下のコマンドを実行します。このコマンドは複数設定できます。

書式 $A n ** * \begin{cases} + \\ - \\ = \end{cases} : \sim$ (nはC、T、Gのいずれか)

AS## : ~
Aφ

説明

コマンド	機能	備考
$AC** \begin{cases} + \\ - \\ = \end{cases} : \text{コマンド}$	チャプター**になったらコマンドを実行する	**はチャプター番号で0~99
$AT** ** * \begin{cases} + \\ - \\ = \end{cases} : \text{コマンド}$ 分 秒	タイム** ** * になったらコマンドを実行する	分・秒の**は0~59。0分のときのみ0は省略可で秒は可変長、それ以外は秒は固定長。
$AG** ** * * \begin{cases} + \\ - \\ = \end{cases} : \text{コマンド}$	ページ** ** * になったらコマンドを実行する	** ** * はページ数で0~53999
AS## : コマンド	プレーヤーステータスのN3、N4が## になったらコマンドを実行する	##はプレーヤーステータスのN3、N4を16進数で表わす
Aφ	Aコマンドを解除する	

- +: センサー位置 ≥ ディスクアドレス設定値
- : センサー位置 < ディスクアドレス設定値
- =: センサー位置 = ディスクアドレス設定値

- Aコマンドの実行終了以前にディスクを取り出すと、Aコマンド以下の内容はクリアされます。
- ステータスについてはステータスデータの構成の項をご覧ください。

例

CALL VP("AC5+:Mφ:M3")

チャプター5以上が再生されると、コマンドMφおよびM3(VHDプレーヤーの映像と音声のミュート)が実行される。

CALL VP("ASφφ:C15:S+1/2")

"φφ"(標準再生)のVHDプレーヤーステータスを見つけると、プレーヤーはコマンドC15(チャプター15のサーチ)を実行し、次いでコマンドS+1/2(再生スピード1/2)を実行する。

CALL VP("Aφ")

Aコマンドを解除する。

[Aコマンドを続けて送る場合のご注意]

Aコマンドを送った後、そのA条件(～になったら)が満たされる前に、新しくAコマンドを送ると、最初に送ったAコマンドは新しいAコマンドに置き換えられてしまいます。

これをさけるには、最初のAコマンドのA条件が終了したことを確認してから、新しいAコマンドを送る必要があります。

A条件の終了チェックはVHDインターフェースステータスを見ることで確認できます。

B 二重音声切換え

機能 二重音声ディスクを再生する時の出力音声を切り換えます。

書式 Bn (nは0~2のいずれか)

説明	コマンド	左チャンネル	右チャンネル
	B0	A 音声	B 音声
	B1	A 音声	A 音声
	B2	B 音声	B 音声

例 CALL VP("B0")

左出力はA音声、右出力はB音声になる。

C チャプターサーチ(ランダムアクセス)

機能 指定したチャプター番号のサーチを行います。

書式 C**

説明 ●ビデオディスクのチャプター番号は、0~99までですの

で、**には、0~99までの値を入れます。

●プレーヤーがサーチしている間、映像信号、音声信号はミュートします。また、サーチ後はサーチ前の再生スピードになります。

●指定したチャプターが見つからない場合は、プレーヤーはサーチをやめます。そして、ディスクの終りの約10秒間を再生して取出し状態になります。

●画面表示が出ている場合、画面表示はサーチしようとしているチャプターの表示になります。以前に指定してあった画面表示にはサーチ後戻ります。

例 CALL VP("C5")

チャプター5をサーチする。

D ディスクモードコントロール

機能 ディスク上に記録されている各信号による制御を可能または不可能にします。

書式 Dn (nは0~3のいずれか)

説明	コマンド	ディスクモードの制御	備考
	D0	オートスチル可能(初期設定)	オートスチル信号によりスチルする
	D1	オートスチル不可能	オートスチル信号によりスチルしない
	D2	エクストラ再生可能(初期設定)	エクストラ信号によりエクストラ再生する
	D3	エクストラ再生不可能	エクストラ信号によりエクストラ再生しない

●ディスクを取り出すと、初期設定状態となります。

例 CALL VP("D0")

オートスチル信号による制御を可能にする。

E イジェクト(取出し)

機能 取出し状態にします。

書式 E

説明 ●このコマンドを送ると、VHDプレーヤーの取出しランプが点滅し、取出し可能状態となります。

●ディスクの最初から再生したい場合には、Eコマンドの次にPコマンドを入力します。

例 CALL VP("E")

取出し状態になる。

G ページサーチ(ランダムアクセス)

機能 指定したページ番号のサーチを行います。

書式 **G*******

- 説明**
- ビデオディスクのページ番号は、0～53999までですので *********には、0～53999までの値を入れます。
 - プレーヤーがサーチしている間、映像信号、音声信号はミュートします。また、サーチ後はサーチ前の再生スピードになります。
 - 指定したページが見つからない場合は、プレーヤーはサーチをやめます。そして、ディスクの終りの約10秒間を再生して取出し状態になります。
 - 画面表示が出ている場合、画面表示はサーチしようとするページの表示になります。以前に指定してあった画面表示にはサーチ後戻ります。

例 **CALL VP("G22")** 22ページをサーチする。

H 制御可能/不可能

機能 VHDインターフェースに対するパソコン制御を可能または不可能にします。

書式 **Hn** (nは00、01のいずれか)

コマンド	制御
H00	不可能
H01	可能

- 説明**
- 誤動作をさけるため、プログラムスタート時には、最初に **H01** コマンドを入力してください。また、電源を切る前には必ず **H00** コマンドを入力してください。

例 **CALL VP("H01")** 制御可能な状態にする。

I 画面表示切換え

機能 画面に表示されている情報を切り換えます。

書式 **In** (nは0、C、T、G、/*****のいずれか)

コマンド	画面表示	備考
I0	表示を消す	(初期設定)
IC	チャプター表示になる	
IT	タイム表示になる	
IG	ページ表示になる	
I/*****	指定した数値表示になる	

- 説明**
- I/*******には0～99999までの指定した数値を、表示させることができます。数値が5桁未満の場合には右づめで表示され、数値データがない場合には空白となります。このモードを解除する場合は、**I0**、**IC**、**IT**、**IG**のいずれかを入力する必要があります。
 - ディスクが取り出されると初期設定状態になります。

例 **CALL VP("I/123")**
画面上に数値 "123" が表示される。

J スキップ

機能 指定したページ数を飛び越します。

書式 **J{+}*****

コマンド	スキップ方向
J+***	正方向
J-***	逆方向

- 説明**
- ***には、0～255までの数値が入ります。

例 **CALL VP("J88")**
正方向に88ページ分飛び越す。

L キープレーン切換え

機能 一般のディスクは1つのストーリーで映像が記録されていますが、今後発売されるディスクの中には、1トラック（1ページ）内に複数の映像が記録され、それぞれの映像が1つのストーリーをもって記録されているものがあります。つまり、ある部分に複数のストーリーの映像が記録されているわけです。この特殊編集された複数の映像を選択して切り換えるのがこのコマンドです。

書式 L *₁*₂

*₁は映像の種類数の総数から1を引いた値です。

*₂は希望する映像の番号（0～*₁のいずれか）です。

（例）5種類記録されている場合は

$$*_1 = 5 - 1 = 4$$

$$*_2 = 0, 1, 2, 3, 4 \text{ のいずれか}$$

- 説明**
- 特殊編集された部分を再生する場合、再生スピードは標準再生にしてください。標準再生以外のスピードでは正常に動作しません。
 - 特殊編集された部分を再生する場合は、エクストラ再生可能な状態で再生してください。不可能な状態（コマンドD3を指定している状態）では正常に動作しません。

例 CALL VP("L21")

特殊編集された部分の3種類の映像の中から、映像番号1の映像を再生する。

- 〈ご注意〉
- VHDプレーヤーHD-7800では、このコマンドは使えません。また、特殊編集された部分を再生すると正常な映像にならないことがあります。
 - 特殊編集部分についてはディスクの説明書をよくお読みください。

M ミュート制御

機能 映像や音声をミュート(消)します。

書式 Mn(nは0～5のいずれか)

コマンド	映像/音声	制御
M0	音声出力	強制ミュート
M1		強制ミュート解除
M2		通常モード(初期設定)
M3	映像出力	強制ミュート
M4		強制ミュート解除
M5		通常モード(初期設定)

- HD-7800では強制ミュート解除(M1、M4)の制御ができず、通常モード(M2、M5)になります。
- 強制ミュート解除を行うと、サーチ中でもミュートされません。
- ディスクが取り出されると初期設定状態になります。

例 CALL VP("M3")

映像がミュート(消)される。

P 再生

機能 取出し状態時やスピード再生を、標準再生モードにします。

書式 P

- 説明**
- 取り出し状態を再生状態にします。
 - 標準再生以外のスピードで再生している状態から、標準再生にしたい時、このコマンドを実行させます。
(ここでいう標準再生とは、エクストラディスクではエクストラ再生をいい、通常のディスクでは、+1倍速の再生をいいます。)

例 CALL VP("P")

標準再生モードになる。

S スピードコントロール

- 機能** 再生方向とスピードを変えます。
- 書式** **S***n******* (*n*は+, -, +1/, -1/のいずれか)
- 説明**

コマンド	入力データ	0	1	2	3	4	5	7	8	9	15	16	17	31	32	33	59	61	64
S+**	スチル 標準 再生	2	3	4	5	/	/	9	/	/	17	/	/	33	/	61	/		
S-**		/	-1	-2	-3	/	/	-7	/	/	-15	/	/	-31	/	-59	/	/	
S+1/**		/	/	1/2	/	1/4	/	/	1/8	/	/	1/16	/	/	1/32	/	/	/	1/64
S-1/**		/	/	-1/2	/	-1/4	/	/	-1/8	/	/	-1/16	/	/	-1/32	/	/	/	-1/64

- +は正方向、-は逆方向を表わします。
- 表に対応しないスピードの値を指定した場合は、近いスピードの値に設定されます。

例 **CALL VP("S-1/4")**
逆方向に1/4倍速のスローモーション再生をする。

T タイムサーチ(ランダムアクセス)

- 機能** 指定したタイムのサーチを行います。
- 書式** **T******
分 秒
- 説明**
- **は(分)(秒)共0~59までです。(分)は可変長(0~59)。0(分)のときのみ0は省略できます。また(秒)は、0(分)のとき、0を省略した場合は可変長、その他は固定長です。
 - プレーヤーがサーチしている間、映像信号、音声信号はミュートします。また、サーチ後はサーチ前の再生スピードになります。

- 指定したタイムが見つからない場合は、プレーヤーはサーチをやめます。そしてディスクの終りの約10秒間を再生して取出し状態になります。
- 画面表示が出ている場合、画面表示はサーチしようとしているタイムの表示になります。以前に指定してあった画面表示にはサーチ後戻ります。

例 **CALL VP("T20")**
20秒をサーチする。
CALL VP("T520")
5分20秒をサーチする。

U 操作ボタン制御

機能 VHDプレーヤーおよび、リモコン送信機上のボタンの受け付けを可能または不可能にします。

書式 **Un** (*n*は0~3のいずれか)

コマンド	VHDプレーヤー操作ボタン	リモコン送信機操作ボタン	備考
U0	可能	可能	(初期設定)
U1	不可能	不可能	
U2	可能	不可能	
U3	不可能	可能	

- ディスクを取り出すと同時に初期設定の状態となり、今までに送られたUコマンドは、解除されます。

例 **CALL VP("U1")**
VHDプレーヤーおよびリモコン送信機上のボタン操作ができない状態にする。

[コントロールコマンド一覧表]

コマンド	コマンド形式	説明	備考
A	AC***(吉):~	このチャプター番号になったら~を実行	~: コマンド(複数可) +: 以上 -: 未満 =: 等しい # #: VHDプレーヤーステータス N3, N4
	AT******(吉):~	このタイムになったら~を実行	
	AG******(吉):~	このページ番号になったら~を実行	
	AS###:~	このステータスになったら~を実行	
	AΦ	Aコマンド解除	
B 二重音声 切換え	BΦ	音声 A+B	
	B1	音声 A	
	B2	音声 B	
C	C**	チャプターサーチ	
D ディスク モードの 切換え	DΦ	オートスチル 可	(初期設定)
	D1	オートスチル 不可	
	D2	エクストラ 可	(初期設定)
	D3	エクストラ 不可	
E	E	取出し	
G	G*****	ページサーチ	
H 交信制御	HΦΦ	不可	
	HΦ1	可	(電源投入時)
I 画面表示 切換え	IΦ	画面表示 OFF	(初期設定)
	IC	チャプター表示	
	IT	タイム 表示	
	IG	ページ 表示	
	I/*****	指定した数値の表示	
J	J{±}***	スキップ(ページ)	
L	L*1*2	キープレーン切換え	*1: 映像の総数 *2: 映像の番号
M ミュート コントロール	MΦ	音声出力の強制ミュート	
	M1	音声出力の強制ミュート解除	(初期設定)
	M2	音声出力通常モード	
	M3	映像出力の強制ミュート	
	M4	映像出力の強制ミュート解除	(初期設定)
M5	映像出力通常モード		
P	P	再生	
S スピード コントロール	S±**	クイックモーション再生	
	S±1/**	スローモーション再生	
T	T*****	タイムサーチ	
U 操作ボタン 制御	UΦ	プレーヤーのボタン	リモコンのボタン
	U1	可	可
	U2	不可	不可
	U3	可	不可
	U3	不可	可

4 情報読み出しコマンドの入力形式

形式 **CALL VP** (文字式, 数値変数)

説明

- このコマンドはVHDプレーヤーからの情報を読み出し、数値変数に代入するものです。
- コマンドの英文字は大文字、小文字のどちらも使用できます。
- 文字式には次のコマンドを使用することができます。

コマンド(文字式に使用する文字列)	数値変数に代入される情報
"S1"	VHDプレーヤーステータス
"S2"	VHDシステムステータス
"S3"	VHDインターフェースステータス
"C"	チャプターアドレス
"T"	タイムアドレス
"G"	ページアドレス

- 数値変数には3つの型がありますがどの型でも使用できます。

整数型(型宣言文字 "%")⇒(例) A %

単精度型(型宣言文字 "!")⇒(例) A !

倍精度型(型宣言文字 "#")または省略⇒(例) A # または A

※ただし、ページアドレスの場合、整数型は使用できません。使用すると"Type mismatch"エラーになります。

- このコマンドを使う場合は、プログラムスタート時に必ず制御可能コマンド(HΦ1)を設定してください。設定しないでこのコマンドを使うと、パソコンが動作しなくなる場合があります。この時は、**CONT** + **STOP** キーを同時に押してから制御可能コマンド(HΦ1)を設定し、再びこのコマンドを実行してください。

●数値変数に代入された情報はPRINT文で表示させることができます。

(例1) 現在再生しているディスクのチャプターアドレスが12の場合

```
CALL VP("C", A) : PRINT A RETURN
```

↓
1 2 と画面に表示される

(例2) 上記と同様にタイムアドレスが25分30秒の場合

```
CALL VP("T", B) : PRINT B RETURN
```

↓
2 5 3 0 と画面に表示される

(例3) 上記と同様にページアドレスが1 2 3 4 5 ページの場合

```
CALL VP("G", C) : PRINT C RETURN
```

↓
1 2 3 4 5 と画面に表示される

●アドレス情報の内容は下表のように区別できます。

プレーヤーの アドレス	再生していない 状態	再生状態		
		リードインエリア内	プログラムエリア内	リードアウトエリア内
チャプター	0	-100	0~99	100
タイム	0	-10000	0~5959	10000
ページ	0	-100000	0~53999	100000

※再生状態のエリアについては「参考」ディスクの形状と名称をご覧ください。

●ステータス情報の場合は、4桁の16進数で表示した方がわかりやすいので、ステータスを画面表示する場合はHEX\$関数で16進数に変換してください。(ステータスデータ構成については次項をご覧ください)

(例) 現在のVHDプレーヤーのステータスが、NTSCのVHDディスクで、サイド1を標準スピード再生中の場合

```
10 CALL VP("S1", D)
20 PS$=RIGHT$("000"+HEX$(D), 4)
30 PRINT PS$
```

↓ RUN
0500 と画面に表示される

※20行の命令文は上位桁が0の場合でも4桁で表示させるためのものです。

5 ステータスデータの構成

3つのステータスデータはそれぞれ2バイト(4桁の16進数)で構成されています。

(1)VHDプレーヤーステータス

上位1バイト					
N1	N2				
(&H0)	ビット	b3	b2	b1	b0
	0	サイド1	AHD	—	PALディスク
	1	サイド2	VHD	—	NTSCディスク

下位1バイト				
N3		N4		
&H		動作状態		
0	再生状態	0	標準速度	標準再生
		1	オートスチル	同一ページの繰り返し再生(オートスチルコードによる静止)
		2	スキップ	センサーがスキップ動作を実行中
		3	—	—
		4	スチル	同一ページの繰り返し再生(静止)
		5	ポーズ	一時停止
		6	—	—
		7	エクストラ	エクストラディスクによる標準再生
		8	逆方向(高速)	-1倍速以上での逆送り高速再生(再生速度<-1)
		9	逆方向(低速)	-1倍速未満での逆送り低速再生(-1<再生速度<0)
		A	正方向(高速)	1倍速を越える正方向高速再生(1<再生速度)
		B	正方向(低速)	1倍速未満の正方向低速再生(0<再生速度<1)
		C	サーチ中	サーチ動作実行中
		D	サーチ(検出不能)	サーチ動作開始後20秒以内に目標アドレスが検出できない場合、その後、4~16垂直同期期間に発生する
		E	サーチ(検出)	サーチ動作により目標アドレスを検出した後、4~16垂直同期期間に発生する
		F	—	—
1	キーブレン再生	0~F	レーン番号	キーブレン再生状態での再生レーン番号
		0~5	—	—
F	再生していない状態	6	リードイン領域検出中	リードイン領域を検出するまでの間の状態
		7	取り出し状態へ移行中	センサーレスト位置まで移動中の状態
		8	—	—
		9	—	—
		A	リフター(上げ)	ディスクが挿入され、リフターが上がっている状態(ディスク挿入直後または取り出し状態)
		B	リフター(上げと下げの中間)	ディスクが挿入され、リフターが下がっているかまたは上下に移行中の状態
		C	—	—
		D	ディスクケースが差し込まれている	ディスクケースがプレーヤー内に挿入されている状態
		E	ディスク挿入可能	ディスク挿入可能状態
		F	ディスク挿入不可	電源投入時のプレーヤー初期動作状態

(2) VHDシステムステータス

上位1バイト		下位1バイト	
N1	N2	N3	N4
(&H F)	バージョンNo.		(&H 0)

[バージョンNo.]

機種	N2	N3
HD-7800	(&H 0)	(&H F)
HD-7900, BD-7950	(&H 1)	(&H 0)

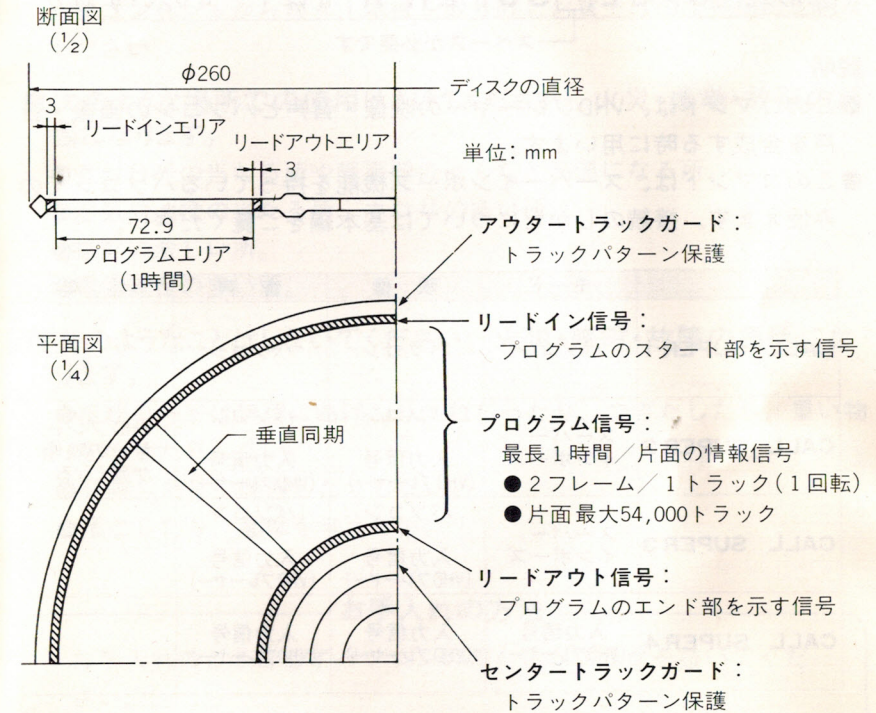
(3) VHDインターフェースステータス

上位1バイト		下位1バイト				
N1	N2				N3	N4
	b3 システム	b2 Aコマンド	b1	b0		
(&H 0)	0 READY	READY	—	—	(&H 0)	(&H 0)
	1 NOT READY	BUSY	—	—		

[N2]

b3	0	VHDインターフェース(VHDプレーヤー)の通信が可能な状態
	1	VHDインターフェース(VHDプレーヤー)の通信が不可能な状態
b2	0	Aコマンドが設定されていない状態
	1	Aコマンド実行開始から実行終了までの状態

<参考> ディスクの形状と名称



用語

レスト位置: ディスク挿入前のセンサー位置(取出し状態の時も同じ)

リフター: 挿入されたディスクを固定する金具、再生中はこのリフターが下がり、ディスクをターンテーブルに固定する。

エクストラディスク: 普通のディスクは1トラック(ページ)に2枚の映像が記録されています。エクストラディスクは1トラックに1枚の映像が記録されているため静止画がゆれずに再生できるものです。

6 スーパーインポーズ用コマンドの入力形式

形式 **CALL SUPER n** nは1～4のいずれか

—スペースが必要です

説明

- このコマンドは、VHDプレーヤーの映像・音声とパソコンの画像・音声を合成する時に用います。
- このコマンドは、スーパーインポーズ機能を持っているパソコンでのみ使えます。接続のしかたについては基本編をご覧ください。

	モード	映像	音声	備考
CALL SUPER 1	パソコン	パソコン	パソコン	
CALL SUPER 2	スーパーインポーズ	パソコン + 入力信号 (VHDプレーヤー)	パソコン + 入力信号 (VHDプレーヤー)	VHDプレーヤーの映像が暗くなる
CALL SUPER 3	スーパーインポーズ	パソコン + 入力信号 (VHDプレーヤー)	パソコン + 入力信号 (VHDプレーヤー)	
CALL SUPER 4	入力信号 (VHDプレーヤー)	入力信号 (VHDプレーヤー)	入力信号 (VHDプレーヤー)	

※スーパーインポーズ用コマンドを使用する場合は、スーパーする部分をCOLOR命令で黒または透明にする必要があります。
詳しくは、スーパーインポーズアダプターまたはパソコンの説明書をご覧ください。

使用上のご注意

■異常や故障の場合

本機の異常や故障に気がついた時は、すぐにパソコンの差し込みプラグをコンセントから抜き、本機を取り外しお買上げの販売店にご相談ください。

■次のような場所での使用はさけてください。火災・感電・故障の原因になります。

- 直射日光の当たる所や暖房器の近くなど高温になる所。
- 湿気や油煙の当たる所、ホコリの多い所。
- 振動の激しい所。
- 電気雑音の多い所。

■次のようなことはしないでください。火災・感電・故障の原因になります。

- 接続コードは無理に曲げたり、ねじったり、つぎたしたり、重い物をのせたりしない。
- 分解したり、改造したりしない。
- 落としたり、衝撃を与えない。

——お手入れの方法——

お手入れのときは必ずパソコンの差し込みプラグを抜いてください。

●キャビネットの汚れは

やわらかい布でふきとってください。汚れがひどい時は、水でうすめた家具住宅用洗剤にひたした布をよく絞ってふき、その後乾いた布でよくふいてください。

●お手入れのご注意

化学ぞうきん・シンナー・ベンジン・殺虫剤など揮発性のものは使わないでください。また、ゴムやビニール製品なども長い間接触させないでください。キャビネットの変質や塗装部分がはげる原因になります。

保証とアフターサービス

●保証書は必ずお受け取りください

この商品には、保証書を別途添付しております。保証書はお買上げの販売店でお渡ししますので、所定事項の記入、および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

●保証期間について

保証期間はお買上げの日より1年間です(ただし、消耗品は保証対象外です。)保証書の記載内容により、お買上げの販売店が修理いたします。その他詳細は保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

●補修用性能部品の保有期間について

当社は、このVHDインターフェースの補修用性能部品を製造打ち切り後、8年間保有しています。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理を依頼されるときは

各項目をよくお読みのうえ、再度お調べください。それでも具合の悪い時は、差し込みプラグをコンセントから抜いてお買上げの販売店に次のことをお知らせください。

●メーカー名、品名、型名 ●お名前、ご住所、電話番号 ●故障症状を詳しく

●アフターサービスについてご不明な点は

ご転居、ご贈答、その他のアフターサービスについてご不明な点は、お買上げの販売店、または別紙サービス窓口案内をご覧くださいのうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。

仕様

種類：VHDパラレルインターフェース
(VHD言語インタープリタ内蔵)

内蔵ROM：32Kバイト

使用電源：+5V(パソコンより供給)

消費電流：+5V 300mA(最大)

VHDプレーヤー端子：13ピンコネクター

外形寸法：横幅109×高さ137×奥行31(mm)

重さ：191g

付属品：VHDプレーヤー接続ケーブル(約1.5m)…1本

※仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。



JVC

日本ビクター株式会社

テレビ事業部

所在地 〒306-06 茨城県岩井市大字辺田1106番地 電話(02973)5-1111(代表)

お問合せ先 ビクターインフォメーションセンター 電話(03)580-2861

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番4号